

令和7年9月4日

會議録

会議の名称	令和 7 年度第 1 回加東市総合教育会議
開催日時	令和 7 年 7 月 4 日（金）午後 2 時 0 0 分から午後 3 時 4 0 分まで
開催場所	社公民館 2 階 研修室
出席及び欠席委員の氏名	
＜出席委員＞ ・市長 岩根正 ・教育委員 田中寿一、後藤純子、岸本恵一、別惣裕美子 ・教育長 藤原路寛	
＜欠席委員＞ なし	
説明のため出席した者の職氏名	
なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・副市長 小林勝成 ・教育総務課長 西山英希 ・学校給食センター所長 芹生祥子 ・中央図書館長 藤田智架子 ・こども未来部参事兼学校教育課長 井上裕子 ・小中一貫教育推進室長 高田篤 ・こども教育課長 長谷川貴子 ・企画政策課長 岸本純子 ・企画政策課主査 仲井智紀 ・教育振興部長 鈴木敏久 ・教育総務課副課長 堅田美佳 ・生涯学習課長 松本裕介 ・こども未来部長 近澤孝則 ・こども未来部付課長兼学校教育課部活動推進室長 郡龍仁 ・こども未来部参事兼発達サポートセンター所長 藤原良二 ・まちづくり政策部長 藤原英樹 ・企画政策課副課長 丸山耕市 ・企画政策課主査 畑谷拓哉	
1 議題	
(1) 第 2 期加東市教育大綱における各施策の取組状況について…資料 1 (2) 第 3 期加東市教育大綱（骨子）について…資料 2 (3) 重層的支援体制整備事業と教育機関との連携について…資料 3 (4) その他	
2 会議の結果及び経過	
⇒別紙「令和 7 年度第 1 回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり	

(別紙) 令和7年度第1回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

発言者	会議の結果及び経過／発言内容
	1 開会 2 市長あいさつ 3 協議
事務局	(1) 第2期加東市教育大綱における各施策の取組状況についてまずは内容について事務局から説明します。 資料1に基づき事務局から説明
司会	本協議事項について、ご意見などありますでしょうか。
委員	このように全てを網羅してまとめることは重要だと思います。各施策の取組状況もよくわかりますし、年度ごとに目標値を上げてレベルアップしながら取り組んでいくということは、非常に素晴らしい取組姿勢だと思います。 ただ、この数値は、あくまでも結果だと思います。簡単に達成率が上がるものもあれば、一生懸命取り組んでもなかなか達成率が上がらないものがありますので、この結果とは別に、各部署できちんと分析をしていただいて、次に繋げていただくことが大事だと思います。 その上で、市長がよく言われている子どもの得意なものを伸ばすということは、市においても同じだと思います。この市の売りは何なのか。重点項目みたいなものを明確にして取り組んでいくことが大事だと思います。 細かなことになるのですが、かとう学の副読本を活用した教科数という指標が未達成とあります。副読本を作った時点では、なるべく使ってほしいという意味で、目標を設定したんだと思いますが、5年も経てば、役割を十分果たした、使う必要がなくなったという見方もできると思います。大事なことは使うことよりも、その狙いを達成することですので、そのあたりも考慮しながら次に繋げてほしいと思います。かとう学の本来の目的はふるさとを愛して、愛着を持つことで、最終的には私はまちづくり学習に繋がると 생각합니다。
事務局	資料2になりますが、次期大綱については重点を絞った形のものを考えています。
事務局	かとう学副読本を活用した教科数については、全11教科中、令和6年度につきましては、道徳の授業で、令和5年度は体育の授業で使うことができませんでした。内容の性質上、社会科や総合学習等で使用することが多くなっていますが、先生方が工夫しながら、全ての教科で横断的に利用できるように進めているところでございます。
委員	いくつか気になった点について述べさせていただきます。 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しようとしている児童・生徒の割合で、達成率だけ見ると70.5%ということですが、実質この実績の数字を見ると、低い値だなという印象を持ちました。 自分のことも振り返って考えたときに、今の時代、すごく親が子どもの心配をしすぎて、先回りして手助けをしすぎてしまっていることが関連しているような気がします。子どもの気持ちに寄り添って、心から応援できれば良いですが、先々

	の困難をできるだけ取り除いてあげたいと思ってしまう気持ちが子どもたちにも伝わってしまってるかと思います。 対策となると難しいところですが、失敗も含めて、挑戦することの素晴らしさとか、良い経験になることを子どもたちに伝えていかないと、積極的に挑戦しようと子ども自身が思えないですし、数値を上げることは難しいと感じます。 もう一点が、サークル活動団体数という項目がありますが、こちらの実績としては、下がりつつあるような状況だと思います。部活動の地域展開のお話の中で、協力してくれるような団体の構成員の高齢化などで、引き受け手が少ないとか、団体自体の数も減りつつあるという話も聞いているのですが、サークル活動でもそういう流れがあるのではないかなと感じています。ボランティアグループでも50代ですら、若手扱いという感じがあり、それより上の世代の方たちが団体の中心で活躍されていると感じるので、団体数はあれど、活動そのものがどうなっているのかとか、団体数より団体でどの程度活動できてるかの方がなんか重要になってくるのではないかなと感じました。 一方で、生涯学習サポーター倶楽部への登録者数が、すごく上がっているように見えるのですが、これは兵教大の学生により高まっているということなんでしょうか。この登録者が子ども教室やチャレンジスクールで指導やサポートをされているということを聞いたので、実際の活動実績はどんなのかなと感じました。
事務局	「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦しようとしている児童生徒の割合」ですが、29.6%と少し低いように感じるんですが、「進んで挑戦する」という割合が29.6%となっています。「挑戦する」と答える子も48.3%いまして、肯定的な回答をしている子どもたちは合わせて77.9%ということで、昨年度より増加しています。 学校生活の中で諦めないで色々なことに挑戦して欲しいという気持ちはあります。子どもたちの気持ちを育てるところで、「かとう夢授業」という、プロの方やスペシャリストの方に講師として来ていただいて、図工、理科、部活動や講演会において、プロの考え方や生き方などを学ぶ場を設けてます。 そういう方々のお話を聞いて、諦めずに頑張ることが大事だとか、自分もどんどん挑戦したいという感想がたくさんあり、お話を聞いたり、実際に教えてもらったりした中で、子どもたちが心を動かされるような体験をこれからもたくさんしたいと考えています。
事務局	サークル活動団体数ですが、公民館を利用される団体数と市内の体育施設で登録して定期的に活動されている団体の実数となっていますが、公民館利用団体につきましては、高齢化の影響で、若干減少していると思います。公民館の方へ足を運んでいただくきっかけを作っていく、活動を周知していくということも大事だと思います。また、公民館に来ていただくという意味合いで各団体の活動を全て載せた『いざない』という冊子を作っています。団体の活動内容、日時や場所を周知するような会報も年1回、更新しながら作っています。団体の活動の周知については、引き続き取り組んでいきたいと思っています。 それから生涯学習サポーター倶楽部、こちらの登録者数は一般の方もおられるのですが、大きくは兵庫教育大学の学生で、大学のボランティアステーションに協力いただきながら、毎年学生さんに多く登録いただいています。 活動内容につきましては、小学生のチャレンジスクールでありますとか、各公民館のイベント、公民館まつりへの支援、地域子ども教室等で活動を支援していただいています。詳細な活動人数は手元にないのですが、延べ100人弱というような数字だと思っています。

委員	かとう学の副読本に関して、副読本を読んで東条学園の子どもが私の会社見学に来てくれました。 危険な作業をしている場所もあるので、何班かに分けたのですが、引率がまず素晴らしかったです。雨が降っている日だったのですが、早めに来て、3班に分かれて整列していました。見学中は、目をキラキラさせて、大人になったら働きたいという発言もあり、「夢や志を持ち〜」という項目に少しでもお役に立てたいというのが嬉しかったです。副読本をどのように活用できて、どのような成果があったのか教えていただきたいと思いました。 それを踏まえながら色々な取り組み状況を見させてもらって、加東市の教育大綱がこういうふうに進んでいくというのを垣間見た気がしました。
事務局	今まで九つの小学校区の範囲でした。しかし、小中一貫校になり、校区も広がると、逆に自分の地域を深く学ぶ機会が減少することから、かとう学で加東市の産業や伝統、祭り等を学んでいただいて、加東市に愛着を持ってもらえるように取り組んでいきたいと考えています。 指標につきましては、使いやすい教科、使いにくい教科があり、見直すことも検討しながら活用を推進していきたいと考えています。
委員	私も生涯学習サポーター倶楽部の登録者数が気になったので、加東市の HP で見て、学生のサポーターがかなりの割合を占めていることを実感しました。現役を退いた方に限る必要はないし、まだまだこの地域社会で役に立ちたいと思って登録をされる方もたくさんおられると思いますので、そういう方と学生さんが協力しながら、地域の役に立ち、子どもたちの学習に役立つような活動をしていけると理想的だと思いました。 もう一つが、6年生と中学3年生の子を対象にしたアンケートが多くあると思います。個別の回答は難しいかもしれませんが、6年生から中学3年生に成長したときの変化が目に見えてわかると良いと思いました。小中一貫教育が進んでますので、その結果が分かると次の段階にも応用できると思いました。
事務局	今言われたように、6年生のときと中学3年生になったときで、その比較をすることで、この部分が成長したとか、よく考えられるようになった等、分析することによってわかることが多いと思います。一度分析してみたいと思います。
市長	学校が子どもたちの夢を育むとか個性を伸ばす場所という観点から気になる箇所が5つほどあります。 1点目、学校の授業がわかると答える生徒児童の割合が実績値 88.4%で達成率 101.6%となっていますが、仮に 35 人の学級とすると約 4 人が分からないということになり、目標値として低いと感じます。 2点目、英検 3 級相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合が 59%という目標値で実績値 45.9%ですが、英検 3 級が中学校卒業レベルであることを考えると低く感じます。 それから、3点目「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」について、多分中学生では将来何になりたいという明確な職業を意識してる子はほとんどいないと思います。そういう意味で「夢や目標を持っていますか」と聞いたときに、漠然とした答えになってしまうのは当然で、70.0%という目標でも構わないのかもしれないと思います。しかし、何らかの夢を持ってほしいと思っているので、47.9%で、50%以下という数値は気になります。質問自体が難しく、例えば、「夢や目標を持っているか」、「得意なものがあるか」や「好きな教科はあるか」、と聞く方がより明確に答えが出るのかもしれないです。

教育長	それから４点目、「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」について、目標が 49.0%、実績が 38.4%。これも少ないと感じます。 最後に５点目、「学校生活に満足する児童生徒の割合」の 64%という目標値も 44.2%という実績値も低く感じます。現実的に 100%にならないかもしれないが、それでも学校は楽しいところと思ってもらえるような場所にしないといけないと思います。具体的な手法は分からない部分もありますが、もう一度原点に戻って、見つめ直してほしいと思います。 一つ一つの数値にとらわれすぎないのが大事だなと思います。先ほど出た授業がわかるという割合は 88.4%と高いですが、実際のテストではそこまでいきません。分かっているけどできない子がたくさんいるということです。それを ICT 等も活用しながら、いかに伸ばしていくかを考えていくことが必要だと考えています。 また、加東市教育基本振興基本計画を今年１年で作っていくわけで、今年度まではこの指標でいきますが、新たに策定していく上で、先ほども数値の話も出ましたが、新しい指標をいかに作っていくかということは非常に大事だと思います。この指標でしっかりと実態をつかめるのかどうか、そのあたりも含めながら策定していきたいと考えています。
委員	「学校の授業がわかると答える児童の割合」を増やすことは、学校教育として求めているかなければいけないことだと思っています。ただ、これを高いと見るか低いと見るかという問題もあります。昔に比べてクラスには本当に多様性に富んだ子どもたちがたくさんいます。外国語しか話せない子どもやサポートファイルを持っている子どもが年々増えてます。そういった多様性に富んだクラスになっていることを前提としながら、割合を高めていかなければならないと思います。それぞれに手立てが異なってくるし、どういう枠組みを作っていくのかということも議論していかなければいけないことだと思っています。数値よりも、その原因を分析していくことが大事なことだと思っています。
事務局	(2) 第２期加東市教育大綱における各施策の取組状況について まずは内容について事務局から説明します。 資料２に基づき事務局から説明
司会	本協議事項について、ご意見などありますでしょうか。
委員	重点項目の内容としてはこれで良いと思います。ただ、重点項目ということであれば分かりますが、加東市教育大綱の骨子と言われたら、あまりにも偏りすぎていて、加東市学校教育大綱のように感じます。加東市の教育大綱とするならば、住民の多くが高齢者である現状を踏まえて、もう少しバランスが必要だと思います。 第２期では人生 100 年時代と掲げているので、生涯学習も踏まえた項目になれば良いと思います。例えば、「教職員の資質向上」について、地域でも様々なサークルが活動しており、「指導者の資質向上」とすることも考えられます。加東市でも少子化、高齢化やグローバル化が進む中で、学校教育と生涯学習をより一体的に捉えた枠組みを考える必要があります。 それから、加東市としては小中一貫校が完成期を迎え、学校運営協議会が立ち上がり、地域とともにある学校とか、学校を核にした地域づくりが始まり、部活動の地域展開も始まるので、地域での教育と学校での教育をもう少し一体的に捉

	えるような枠組みが必要かと思います。
事務局	今回の骨子は絞った内容になっていますが、教育振興基本計画の策定状況を踏まえながら、幅広い内容を検討していきたいと思います。
委員	気なる点が2点ほどあります。全ての子どもが自分の得意を見つけるということについて、得意を見つけられたら本当に素晴らしいと思いますし、理想的だと思います。一方で、子どもによってはハードルが高いと感じる子も結構いると思います。得意なことという、他の人よりもできるとか、優れていることこのように捉えられると思います。自己肯定感が低かったり、劣等感を日頃から持っていたりする子どもからすると、得意なことを見つけなければならないというしんどさを感じてしまう子もいるだろうと想像します。得意なものよりも、まずは自分が心から好きだと思えることが何かということをも自分の中で意識的に見つけてもらいたいと思います。そして、好きを突き詰めていく中で、自信になったり、得意になったりしていくように、段階を踏んで、得意なものを最終的に見つけてもらえたらと思っています。 得意なことにつなげるためにも、好きなことを思い切りできる環境も大事だと思っています。最近の子どもたちは、日頃から習い事やアフタースクールで過ごす時間が長く、常に集団の中で生活しているような状況が多く、自分が好きなことを好きなタイミングでできること自体が贅沢なことになりつつあると感じることが多いです。 親としては、色々な経験をさせてあげたいという思いで習い事を色々とさせたりもするのですが、習い事自体が義務のようになってしまわないかも気になるところで、自分が好きなことに熱中できる時間を小さいうちから十分に経験してもらいたいなと思っています。そういう点で、幼児期の経験が大事になると思います。こども園や幼稚園に通う年齢、それ以前の年齢から、こだわりや好きなものを持つ子も結構多いと思うので、児童館や園での経験が好きなものに対するベースになると思うので、好きを育てる環境として大事にしていく必要があると思っています。 それから2点目が教職員の資質向上と業務効率化という点で、昨今、働き方改革を進められてきた中で、具体的な効果がどの程度現れているのか、現場の先生が改善されたと感じているのか気になります。そういうことを話し合える場は学校内にあるのかということ、その場から出てきた問題点をどう改善するのかというところが大事になってくると思うので、そのあたりの現状を教えていただけたらと思います。
事務局	働き方改革と言われるようになって教員の意識はすごく変わってきてます。今までは退勤時刻や超過勤務については、少し意識が低いところもありましたが、ここ数年でかなり意識は高くなってきています。定時退勤日やノー残業デー等を取り入れながら学校全体で進めています。 教職員で話し合う機会については、教職員50人以上の学校につきましては、安全衛生委員会というものを月1回開催していきまして、その場で必ず教職員の働き方、健康面や業務量などについて話し合う場を持っています。その他の学校についても必要に応じてそのような場を設けています。
委員	先ほど市長から英検3級相当の英語力を有する中学3年生の割合が低いという発言もあったので、大綱にグローバル化に向けての英語力の推進という文言を入れて目標にするという方法もあると思しました。 それと、分野を問わずICTを活用し習熟の程度に合わせた教育の推進という言

	業について、習熟が早い子どもに合わせるように捉えられるので、遅い子どもにも合わせるような意味合いの言葉を考えたほうが良いと思います。
事務局	この会議でいただいたご意見をふまえて内容や表現を検討していきたいと思います。
委員	生涯学習・教育という言葉からも、教育は幼児期、学校教育、社会に出て仕事をして、引退して、それぞれの過程で、自分の生活や心を豊かにする色々な教育の方法や機会があると思います。加東市は小中一貫教育を推進してきて、学校と地域の繋がりが重要だと思うので、学びづくりと地域づくりの一体化したような項目や文言が入っても良いと思います。また、防災教育もどこかに入れてもらえたら良いと思います。
市長	大綱は総合的な計画で、大事なことは全部書かないといけないので、最終的にはどの市でも、本質的には概ね同じ内容になります。表現についてもできるだけ特徴を持たせようと頑張るんですけど、最終的に緩やかな表現になってしまうので、大体似たようなものになります。 だから大事なのは作るプロセスだと思います。市長部局、教育委員会や学校現場等の人たちが一緒に議論していくことが一番大切で、みんなが一緒に同じ方向を向くことが大事だと思います。必ずしもここに書ききれないようなことも入ってくると思うのですが、方向性が合っていれば良いと思います。過程を大事にして皆さんで議論しながら方向性を決めていきたいと思います。
教育長	一つ一つの項目については非常に大事なことです、何かの形で入れていただきたいとは思いますが、特に「個性を最大限伸ばす教育」や「個別最適な学びの推進」については、いずれも子どもたちの学ぶ意欲の向上に繋がりますし、県が提唱している「予測困難な時代を生き抜く力」に繋がるものだと思います。さらには非常に大切な学力向上についても、個別最適な学びというのは、ICTを活用しながら、協働的な学びも生かしながら、両輪で進めていくのが大事だと思います。 先ほど委員の意見を聞きながら思ったのですが、「誰一人取り残さない教育」についても非常に大切で、配慮を要する子どもへの教育のことだと思うのですが、これを学校や地域、家庭との連携の中で支えるという形にすれば、学校だけでなく、みんなで子どもたちを支えるんだということで、学校運営協議会を立ち上げました。非常に重要ですので、そこも含めて強調すれば良いと思います。 それから、教職員の資質向上について、やる気を引き出す指導力の向上ということなんですが、これも非常に大切なことだと思います。子どもたちにとっては、授業がわかりやすいということも教育環境です。だから教育環境の整備、充実ということでは、機器更新やセキュリティ対策も含めて、非常に大切なものではないかと考えます。 生涯学習について、県は基本方針の中の一部に入っています。加東市は、一つの大きな項目に挙げるのか、中の一つにするのか、検討していかないといけないと思ってます。 最後に一つだけなんですけど、第4期加東市教育振興基本計画では、県教委が発行している基本計画も参考にしながら作成していく予定です。県の計画には、基本方針が三つあり、ある程度揃えることも含めて今後考えていきたいと思っています。 (3) 重層的支援体制整備事業と教育機関との連携について

事務局	まずは内容について事務局から説明します。 資料 3 に基づき事務局から説明
委員	重層的支援体制整備事業について、学校現場では、これまでも市の福祉部局や県の福祉事務所と連携し、情報を共有しながら取り組みを進めてきていたと思うのですが、今までとどう変わるのか教えていただけたらと思います。
事務局	今おっしゃっていただいたのは要保護児童対策地域協議会のことかと思います。主に 18 歳未満の子どもたちを見守っていく定期的な会議というのがございました。重層的支援体制整備事業については、それ以外の 18 歳以上の子どもであつたり、複雑・複合化した課題をお持ちの世帯であつたりを包括的に支援していく事業になっています。対象者が広がったというふうに考えていただけたらと思っています。
事務局	補足ですが、問題解決に向けて取り組むことは一緒だと思いますが、一つの問題について、たくさんの関連した課題がありまして、それを解決するには各部署の壁を低くして、風通しを良くして、お互いに情報共有をしていきたいと思います。重層的支援体制整備事業ということで、明文化することによって担当職員の意識づけというところでも大きく変わったと思っています。
教育長	重層的支援体制整備事業が始まり、学校と福祉部局の連携がより進んだと感じました。特に保護者への支援については、子どもを学校へ行かせてほしいという思いが保護者に伝わらなくて、なかなか学校に来れない子もいます。そのようなときに福祉の方で後押ししていただいて、家庭訪問したり、長い間学校に来てなかったら安否確認をしたりして連携していることが一つと、小さいことでもお互いの情報交換をするということをしていました。 福祉の方から、家での子どもの様子を事前に聞いていれば、子どもの行動の背景を知ることができますし、逆に福祉の方が保護者と話しする場合も、学校での様子を伝えていれば、保護者に伝えやすく、お互いに情報を共有するのが大事だと思います。 最後は、スクールソーシャルワーカーを学校に 2 名配置していますが、この方々の動きが非常に大きくなってきたと思います。仲介役となって学校にも福祉の方にも伝えるということで、非常に重要な役割を持っていると感じています。
司会	(4) その他 全般通じて、何かございますか。
市長	子どもが楽しみながら学校へ行って、夢を持って才能を伸ばして欲しいと思います。そういう意味で加東市として、もう少し特徴を持つことややり方を工夫することを考えていかないといけないと思います。 もう一つは支援の必要な子が昔に比べて増えてるような気がします。1 人 1 人状況が違うと思うので対応が難しいと思いますが、必要なことを対応していただければと思っています。 それから重層的支援についても、状況がケースバイケースなので、難しいと思います。1 人 1 人状況が違いますが、一緒になって子どもたちのために汗かいていけたらいいと思います。
教育長	加東市教育振興基本計画を 1 年かけて作っていきますが、先ほども指標のこと

	については、もう1回考えていかなければいけないと思います。教育大綱についても非常に重要ですので、県の基本計画も十分に参考にしながらお互い進めていければと思っています。
--	---

	4 閉会
--	-------------